研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		20-326	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Antidiabetic drugs and non-alcoholic fatty liver disease: A systematic review, meta-analysis and evidence map

抗糖尿病薬と非アルコール性脂肪性肝疾患。システマティックレビュー、メタアナリシス、エビデンスマップ

執筆者

Jai Kumar, Roha Saeed Memon, Izza Shahid, Tehlil Rizwan, Maryam Zaman, Ritesh G Menezes, Sarwan Kumar, Tariq Jamal Siddiqi, Muhammad Shariq Usman

掲載誌

Dig Liver Dis. 2021 Jan;53(1):44-51. doi: 10.1016/j.dld.2020.08.021.

キーワード	PMID
DPP-4 阻害薬、GLP-1 アゴニスト、メタアナリシス、NAFLD、非アルコール性脂肪性肝疾患、ピオグリタゾン、SGLT-2 阻害薬	32912770

要　旨

背景と目的： 非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）に対する抗糖尿病薬の有効性はいまだ不明である。ピオグリタゾンと 3 つの新規抗糖尿病薬（グルカゴン様ペプチド-1（GLP-1）アゴニスト，ナトリウム-グルコース共輸送体-2（SGLT2）阻害剤，ジペプチジル-ペプチダーゼ-4（DPP4）阻害剤）の NAFLD に対する有効性をメタアナリシスで検討する。

方法：2020 年 5 月にオンラインデータベースを検索し、無作為化臨床試験を調べた。ランダム効果メタアナリシスの結果は、加重平均差（WMD）または標準平均差（SMD）と、それに対応する 95%信頼区間（CI）で示した。

結果：26 件の研究（NAFLD 患者 946 名）が対象となった。ALT の低下は、ピオグリタゾン（MD -38.41, $p<0.001$）、SGLT2 阻害剤（MD -16.17, $p<0.001$）、GLP-1 アゴニスト（MD -27.98, $p=0.04$）、DPP-4 阻害剤（MD -7.41, $p<0.001$）の 4 薬剤すべてで認められた。また、ピオグリタゾン（SMD -1.01、$p<0.001$）と GLP-1 アゴニスト（SMD -2.53、$p=0.03$）も肝脂肪率を有意に改善した。SGLT2 阻害剤（SMD -4.64、$p=0.06$）と DPP-4 阻害剤（SMD -2.49、$p=0.06$）は、脂肪肝を減少させる傾向にあったが、これらの結果は有意ではなかった。

結論： ピオグリタゾンは、糖尿病性および非糖尿病性 NAFLD 患者において、トランスアミナーゼおよび肝組織の有意な改善を示した。糖尿病性 NAFLD 患者から得られた初期のエビデンスは、新規抗糖尿病薬が肝酵素と肝脂肪症の改善につながる可能性を示唆しており、NAFLD 治療におけるこれらの薬剤の有用性についての研究を促進するものである。